

ひとり親家庭の親の貧困とこれからの支援政策の在り方について

社会福祉学科 福祉政策系 横山友香

本研究は子どもの貧困が問題視されている中で、特にその貧困が顕著であるとされるひとり親家庭について、親を中心としてその経済的な貧困と時間的な貧困に着目し、現在日本で行われている支援政策にどのような課題があるか明らかにすることを目的とした。そして、明らかになった課題を基にドイツやフランスの取り組みを参考にしながら、今後のひとり親家庭支援政策の在り方について考察している。

研究の結果、今後のひとり親家庭支援では以下のような取り組みが求められることが明らかとなった。まず、就業支援の中で就労ケースマネジメントを確立する必要がある。また、所得保障も充実させることにより就業支援の間の生活を安定させることも求められる。次に生活支援においては世帯全体を対象とした経済的支援を行うとともに、福祉的専門機関を設置することにより支援の基盤を固めることが求められる。さらに生活支援の大きな柱として家事負担軽減支援も新たに創設する必要があることも明らかとなった。